



シーニック的
アウトドアな人々 Vol.001

中標津町 北根室ランチウェイ
代表 **佐伯 雅視**さん

情熱とひらめきの

「歩く」

アーティスト



中標津空港に降り立ち、市街地から開陽台、養老牛温泉、モアン山、西別岳、摩周湖を望みながら展望台へ。そして弟子屈町美留和の駅まで71・4キロをずっと歩くことができる道があります。それが北根室ランチウェイです。

ランチとは「大牧場」の意味で文字通り広大な牧場や草原の景色を楽しみながら歩く道のこと。酪農家の庭先では挨拶をかわしたり立ち話をすることも。牛や馬のすぐそばを歩くコースではドライブでは味わえない距離感を感じることが出来ます。

「マンパス」は家畜を通さず人間だけが通れるゲートで、各所に設置されるのを通過するのもランチウェイならではの楽しみのひとつ。

「北海道の道東をロングトレイルのメッ

カにしたい。」と10年前7名の精鋭たちが立ち上げました。中心となったのが佐伯雅視さん。「長く歩ける本物のトレイルを作りたい」。この想いだけで地道に自分たちのトレイルを作り続けて来ました。

「交通機関が充実していくのは素晴らしいこと。けれど新しいものと古くからのものを両方をきつちりと残す必要がある。」海外では歩く旅が昔から盛んで現在へしつかりと根付いています。スコットランドの国立公園250キロのフットパス。アメリカの全長約3500キロのアパラチアン・トレイル。スペイン巡礼の道800キロ。そして日本のお遍路さん。

「人間は歩く事で心のよりどころを見つけれられるんだ。」と佐伯さんは言います。世界に多く残る多くの人たちに愛されている道がそれを物語っていると。北海道ほどそれを実現するのにふさわしい場所はないはず、と佐伯さんは考えています。子供の頃から山歩きが好き。特に第一展望台から西別岳、摩周湖への道が大



好きでいつも歩いていたといえます。

これは何かにならないのか。もって何かに繋げていけないのか。時が経ち佐伯さんはフットパスの存在を知り、歩く道に需要があることを知りました。海外のトレイルやフットパスをたくさん見て回った。良いと思うものやアイデアはすべて自分の道に取り入れた。色彩を統一した標識、矢印、マーク。そしてマンパス。デザインにもことごとくこだわり、ひとつひとつ丁寧に手作りし、こつこつと道を作ってきました。振り返ると10年。今世界中から佐伯さんの道を歩きたい人が訪れています。この道を見つけた人々の表情はまるで何かを見つけたように晴れやかです。「ただ、歩く旅をめざして」。最初に掲げたテーマは、これからも変わりません。ずっとそう信じて続けて来た佐伯さんの道作りの人生は続きます。

(文: 宿谷友美 / 写真: 酒田浩之)

レストラン 牧舎

ルート情報・ガイドに関するお問い合わせは
北根室ランチウェイ事務局 / 佐伯農場
TEL 0153-73-7107
住所 〒088-2686
北海道標津郡中標津町字俣落2000-2

【HP】
<http://saeki-farm.sakura.ne.jp/bokusya/bokusya-index.html>
【FACE BOOK】
<https://www.facebook.com/牧舎-1433437030295267/>